



魂のゆくえと 「故郷」の変容

神子島 健

(かごしま・たけし)

vol. 88

「芳

雄が亡くなったってこ
とは、俺とカミさんの

老後をみてくれたり、墓を守っ
てくれる子どもがいなくなっ
たわけだ」

夫婦の会話にも、当然それは
出てくる。

「芳雄の思い出話を語って、
めそめそして終わる……って
いうわけにはいかない。具体的
に、現実的に、俺たちの老後や
墓はどうなるんだって、考えな
きゃしょうがないだろう？」
(重松清『ひこばえ』上巻、朝日
新聞社より)

吾輩の若い友である弥生
ちゃんが、3匹の子ネコを生ん
だ。久々に会いにいったところ、
そのうちの1匹、メーちゃんが
亡くなっていった。家族を失った
悲しみは深い、ましてや子を
失った親の悲しみとくれば、想
像を絶するものがあるにや。と

いうことで、話は前回の続きで
ある。

人間諸君は墓だったり、遺影
だったり、形のあるものに故人
をいわば「託す」ことを行っ
てきたにや。これは前回話をした
ところである。チー子が疑問を
投げかける。

「ウチらネコや、他の哺乳類
は、死んだら土に還るわけや
な？」ほかの動物のエサとな
り、細菌などに分解されていき、
土に還っていくわけだにや」
「考えようによつては、そう
やって生命の連鎖がつながっ
ているようにも思えますね」と、
死児の父であるコロちゃんが
ボソッと言う。

「人間は、今やったら火葬も
多いけど、昔は土葬が多かった
んやろ？」ってことは、ウチら
とおんなじように結局土に還
るわけやな？」「人為的に埋葬
する、ということとは、自然に分

解されることと何の違いがあ
りそうかにや？」

「動物のエサにはならへん
な？」「そう。目に見える形で死
者が『食われる』ことと、腐敗
した遺体を直接見るのを避け
たいという思いがありそうだ
にや」なるほど。確かに土の中
で分解が進むと、遺体が生前の
姿を失っていくプロセスを見
なくて済むわけですね」とコロ
ちゃんが冷静に指摘する。

「そうだにや。日本の文脈で
言うと、『死のケガレ』を忌避す
るというのはまさにそれがあ
る。『古事記』で、死んだ妻であ
るイザナミに会いに黄泉の国
へとイザナギが向かう。そこで
見たのは「蛆たかれころろき
て」(蛆虫が集まり声がむせび
ふさがって)という光景であつ
たにや(原文も解釈も岩波文庫
版より)。

ちなみに、蛆のわいたイザナ



言及したNHKの番組に出てくる、南三陸町の防災対策庁舎。この写真は2013年で、番組に出てくる2012年段階では、正面の柱のところに祭壇があり、もっとそばまで入れた。

ミの姿を見て黄泉の国から逃げ帰ったイザナギが真っ先に行ったのは、水で身を清める「禊」(みそぎ)だったにや。死の世界が「この世」と違うことが強調されているにや」

「その昔ばなし(神話)を持ち出す理由がようわからん」確かに神話の位置づけは難しいにやあ。とりあえず、それだけ昔からそういう考えがあったと言えるし、昔の文脈で言えば、悲しみに任せて死者を生者の

もとに置き続けてしまうことは伝染病などを蔓延させるリスクを高めてしまう。死者を「別の世界の存在」として葬ることは、共同体を守るための規範であったとも言えるだろうにや」

「もっとも、肉体の持つ物質性や、死者の記憶を形象化する墓といったものともまた違うものを人間は考え出した」何や？」

「死者を身体と切り離し、霊

魂のようなものを考えることによって、死後もその人が何らかの形で残っていると観念上考えたわけだにや」タマさん、それを観念上って言い切ってしまうんですか?」まあ、立場によっては、魂は「ある」と言えるのだからうけどにやあ…」

「日本の人々は、死者の魂が親しい人たちの所へ戻ってくると考えてきたんですよ?」「そうだにや。ただ、「親しい人たち」というのが結構難問なのだにや」「そうやの?」

「例えば、以前NHKで、「日本人は何を考えてきたのか」第7回「魂のゆくえを見つめて」柳田国男 東北をゆく」という番組があったにや。そこでの整理を使うと、日本の民俗学の父と言われる柳田国男は、祖霊が三三回忌などを経て個性を失って「イエの霊」になって、山の神と田の神としてイエ

の子孫を見守る。そうしてイエの田畑をうるおす水を山から運んでくれるのだという」

「ふーん」
「対して、柳田の弟子であった折口信夫は、死者の霊はイエの霊でなく、共同体、ムラの霊となつて村全体を見守るのだということ考えたのだにや。これは同性愛者であり、血のつながった子孫を残せない折口ゆえの考えとも言えるし、「イエ」を基礎として考えると、そういう人たちが排除されてしまう現実を反映しているとも考えられるにや。それとは別に、折口の養子が戦死してしまつたこともあり、同性愛者であることが養子によつて家を継ぐことはできなかったが、その可能性が絶たれてしまったという観点から考えることもできるかもしれにや。この辺も簡単な話ではにやい」



友達のカイくんであるにゃ。

「誰の霊が誰のために還って
くるのが違うわけやな」そ
う。死者の魂が例えば盆や正月
に故郷に還ってくるような考
えは同じなのだが、二人の考え
は魂の位置づけが違うわけだ
にゃ」「正直、ピンとこんわ」

「そうだろうにゃ。例えば柳
田の考え方は「家の成立には、
かつては土地が唯一の基礎で
あった時代がある。田地が家督
であり家存続の要件」だったと

いう考え方が念頭にある。そし
て、農薬も化学肥料もなく、今
以上に稲作にとって天候の影
響が決定的だった時代におい
て、「田地を家の生存のために
遺した人の霊は、さらにその
年々の効果において、誰よりも
大きな関心をも」ったから、田
の神はイコール祖先の霊で
あったと日本の人々は考えた、
というのが柳田のスタンスだ
にゃ」（引用は柳田国男「田の神
と山の神」『先祖の話』所収）。

「なんや、その前提がピンと
来んのやな」そう。柳田自身は
これを「過去の考え方」とし
て語っているものの、その実、
明治末から昭和にかけて活躍
した彼にとつて、稲作を中心と
した農家がイエを守ることで
社会が安定するという信念が
あり、さらにはそれが大日本帝
国のイデオロギーとマッチし
ていた面があるわけだにゃ。

チー子の指摘はつまり、そう
した、柳田だけでなく折口にも
あった、稲作を中心とした日本
社会という見方が現代の日本
では大きく変わっているとい
うことだろうにゃ」

「先祖が田んぼとその向こう
の山から見守ってくれるゆう
ても、ウチのパパたち（いわゆ
る飼主）みたいに、そもそも
田んぼなんか家にも実家にも
ない大部分の人には無意味や
な」そうだにゃ。せいぜい「昔
はそうだった」という話だろ
うにゃ。

先ほど紹介したNHKの番
組の中では、作家の重松清が東
日本大震災の被災地を回りな
がら、「魂のゆくえ」について考
えていたのだにゃ。そこで彼は、
故郷の村や田んぼやイエがあ
るといふ、数十年前にあった前
提がなくなりつつあるんじゃない
かという問題提起をして

「しかし死者の記憶を考える
場がなくなればいいとか、無く
なるといふ話でもない。むしろ
時代が変わってもそういう場
が必要なのはニヤいかとい
う提起もなされている」「ふー
ん」

冒頭に紹介した『ひこばえ』
という彼の小説は、「死」の問題
に向き合おうとしたものだ
にゃ。そこには、明らかに多摩
地域をモデルにした「多摩ヶ
丘」という街が出てくる。元々
の山林を切り開いて、首都東京
の郊外として、地方から来た人
たちによって発達してきたの
が今の多摩地域だにゃ。「故郷」
が変容する中で死者の行方を
どう考えるかというのは、多摩
地域に暮らす読者諸君にとつ
て、きわめてリアルに突き付け
られている問題だと思っただ
が、どうかにか〜？



2020年8月の事務局活動

- 5日(水) 106号室片付け
議員の学校講座撮影打合せ
- 7日(金) 座談会「東京都知事選挙」
『緑の風』編集会議
50周年記念資料作成準備
- 13日(木) 議員の学校企画運営委員会
財政デザイン研・財政講座補助(立川市)
- 14日(金) 奥多摩町町議会議員ご来訪
- 16日(日) 50周年記念資料作成準備
- 19日(水) 財政デザイン研・財政講座補助(中野区)
- 26日(水) 事務局会議
- 27日(木) 多摩研 50周年記念企画打合せ
『緑の風』印刷・丁合
- 28日(金) 『緑の風』封入・発送

事務局よりご報告

(1) 理事・監事の辞任

下記の2名の方が、ご都合により各役員を7月18日付で辞任されましたので、ご報告いたします。

- ・本田 浩邦さん(理事)
- ・丸山 美子さん(監事)

(2) 多摩研49周年

2020年9月11日に多摩研創立49周年を迎えました。来年はいよいよ50周年です。50周年に向けての準備も始動しています。会員のみなさまには、あらためて呼びかけ等してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(3) 第62回 自治体学校 記念講演上映会

2020年9月20日に宮本憲一先生の上記上映会を開催いたしました。参加者7名でした。宮本先生の講演を聴講し、「再度、上映会をした方がいいのでは」との声もいただきました。詳しくは『緑の風』2020年11月号でお伝えする予定です。

(4) 「議員の学校 オンライン版」講義収録

9月5日・21日に「地方自治を真ん中に憲法の全条文を読む」◇導入編の講義収録をしました。撮影場所は「劇団ひの」で、撮影・編集は映画『たぬきがいた』の監督、榊祐人さんをお願いしました。多摩地域に根を張り文化活動をされている方々に支えられ、完成した多摩研初のオンライン版講義です。ご自分の目で、その成果をぜひ！ご確認ください。

※2020年は住民基本台帳人口の増減数による推計値

1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2020年		
253,527	387,178	466,347	536,046	580,053	576,608	八王子市	1
117,057	142,675	152,824	164,709	179,668	181,229	立川市	2
136,959	136,910	139,077	135,746	138,734	149,274	武蔵野市	3
155,693	164,526	165,564	171,612	186,083	194,244	三鷹市	4
70,954	98,990	125,960	141,394	139,339	132,901	青梅市	5
163,173	192,198	209,396	226,769	255,506	263,646	府中市	6
75,662	89,344	105,372	106,532	112,297	112,365	昭島市	7
157,488	180,548	197,677	204,759	223,593	240,571	調布市	8
202,801	295,405	349,050	377,494	426,987	434,670	町田市	9
94,448	102,456	105,899	111,825	118,852	126,809	小金井市	10
137,373	154,610	164,013	178,623	187,035	196,787	小平市	11
98,557	145,448	165,928	167,942	180,052	190,692	日野市	12
96,545	119,363	134,002	142,290	153,557	150,564	東村山市	13
81,259	91,010	100,982	111,404	120,650	129,147	国分寺市	14
59,709	64,144	65,833	72,187	75,510	75,395	国立市	15
37,938	48,694	58,062	61,427	59,796	56,899	福生市	16
60,297	70,836	74,189	75,711	78,751	84,107	狛江市	17
46,173	65,553	75,132	77,212	83,068	84,199	東大和市	18
51,911	61,913	67,539	68,037	74,104	75,303	清瀬市	19
78,075	106,556	113,818	113,302	116,546	116,511	東久留米市	20
41,275	57,198	65,562	66,052	70,053	71,270	武蔵村山市	21
30,370	95,248	144,489	145,862	147,648	147,796	多摩市	22
30,817	48,154	58,635	69,235	84,835	92,294	稲城市	23
22,783	42,017	52,103	56,013	57,032	54,295	羽村市	24
45,067	62,810	71,940	78,351	80,868	79,816	あきる野市	25
144,660	158,235	170,290	180,885	196,511	207,132	西東京市	26
17,687	22,803	30,967	32,892	33,497	32,206	瑞穂町	27
8,835	13,854	16,444	16,631	16,650	17,062	日の出町	28
5,036	4,230	3,808	3,256	2,558	1,972	檜原村	29
11,733	9,808	8,752	7,575	6,045	4,842	奥多摩町	30
2,533,862	3,232,714	3,659,654	3,901,773	4,185,878	4,280,606	多摩地域計	
33,267	33,674	32,336	27,640	27,815	24,633	島しょ計	
8,840,942	8,351,893	8,163,573	8,134,688	8,945,695	9,688,482	現23区計	
11,408,071	11,618,281	11,855,563	12,064,101	13,159,388	13,993,721	東京都計	

表1 国勢調査による多摩地域30市町村の100年間の人口の推移

		1920年	1930年	1940年	1950年	1960年
1	八王子市	78,705	95,389	111,028	131,470	164,622
2	立川市	9,987	19,275	41,070	63,218	81,938
3	武蔵野市	4,931	17,229	41,767	73,149	120,337
4	三鷹市	5,725	8,218	24,247	54,820	98,038
5	青梅市	33,097	37,422	39,231	53,166	56,896
6	府中市	12,032	16,558	26,110	45,295	82,098
7	昭島市	5,896	7,500	13,936	31,692	44,805
8	調布市	8,619	11,398	17,825	34,865	68,621
9	町田市	23,620	26,669	32,020	52,486	71,269
10	小金井市	3,866	6,129	12,650	22,604	45,734
11	小平市	6,068	6,558	8,674	21,659	52,923
12	日野市	8,150	9,175	12,476	24,444	43,394
13	東村山市	7,798	9,462	11,402	17,993	42,946
14	国分寺市	4,618	6,454	9,324	19,125	39,098
15	国立市	2,611	3,814	4,716	14,333	32,609
16	福生市	5,031	6,005	7,921	14,669	21,998
17	狛江市	2,679	3,957	5,657	10,124	25,252
18	東大和市	5,017	5,442	8,152	12,366	14,239
19	清瀬市	3,083	3,584	7,203	11,610	17,863
20	東久留米市	4,605	5,153	6,168	8,415	19,637
21	武蔵村山市	7,165	7,891	8,989	10,989	12,065
22	多摩市	4,111	4,497	5,158	7,799	9,746
23	稲城市	3,962	4,193	5,337	9,824	11,012
24	羽村市	5,113	5,800	5,878	8,373	11,003
25	あきる野市	19,363	21,127	21,827	28,162	29,286
26	西東京市	6,732	8,972	16,313	28,343	78,091
27	瑞穂町	7,580	5,710	6,851	9,210	12,092
28	日の出町	5,651	6,659	6,673	8,436	8,047
29	檜原村	5,389	5,513	5,693	6,373	5,650
30	奥多摩町	9,514	10,896	12,543	16,287	13,785
	多摩地域計	310,718	386,649	536,839	851,299	1,335,094
	島しょ計	33,106	35,116	39,328	41,130	38,681
	現23区計	3,358,186	4,986,913	6,778,804	5,385,071	8,310,027
	東京都計	3,699,428	5,408,678	7,354,971	6,277,500	9,683,802

は、戦争の影響による人口減少と、その反動かのように高度経済成長に合わせた人口増が見て取れます。

多摩多摩地域の現在の人口に目を向けると、上位5自治体は資料1の通りです。八王子市が人口57万6608人、町田市が人口43万4670人と続きます。下位自治体では、檜原村が1972人、奥多摩町が4842人となります。これらの自治体の人口の推移を表1で見て行く中で特徴的なのはちょうど多摩ニュータウンへの入居が始まる頃の1970年から1980年にかけての国勢調査で、多くの自治体が人口を爆発的に増やしています。

中でも多摩市は特徴的で、1970年の際には3万370人だった人口が、1980年では9万5248人と、3倍以上に増加しています。1950年から1960年にかけて人口が800万人を超え、伸び具合が頭打ちになった感のある23区内に対し、人口の受け皿として多摩地域への入居が

進んだことが見て取れます。

一方で、檜原村、奥多摩町、島しょ部などは1960年の国勢調査をピークに人口が下降傾向にあります。東京都心部への人口一極集中にはこのように各自治体から人をいびつに集めて来た点に目を向ける必要があります。

今回取り上げたデータは人口だけを見てもごく一部に過ぎず、国勢調査によって得られる貴重なデータは他にも多岐にわたります。これらのデータは国や地方公共団体を初めとして、様々な研究・企業にも活用される、この国の最も基礎的な統計と断言していいでしょう。

普段の日常生活ではあまり目にするのではない統計情報ですが、我々の暮らしを支える大黒柱です。その意識をもって国勢調査の回答に臨みたいと思います。

(多摩研事務局 松川遥)

資料2 1920年の人口を100とした、人口の指数 上位5自治体等

		1920年	1970年	2020年
22	多摩市	100	739	3595
4	三鷹市	100	2720	3393
10	小金井市	100	2443	3280
11	小平市	100	2264	3243
17	狛江市	100	2251	3139
多摩地域計		100	815	1378
島しょ計		100	100	74
現23区計		100	263	289
東京都計		100	308	378

多摩30市町村 国勢調査人口100年の推移

2020年10月に第21回国勢調査が実施されます。大正9年(1920年)に第1回の調査が行われ、今年で実施100年目の節目を迎えます。総務省統計局は、これに合わせて「国勢調査100年のあゆみ」と題した冊子を発行し、国の実態を明らかにする国勢調査の重要性を広めています。

『緑の風』の紙面上でも、統計の重要性を確認するためや、資料としての国勢調査のデータを取り上げて参りましたが、今回は100年の節目を迎えるにあたって、国勢調査人口100年の推移を、調査に先駆け確認したいと思います。なお、2020年のデータにつきましては、国勢調査人口を基準とし、毎月の住民基

本台帳人口の増減数を加えた「推計値」になります。正式な数値は、「人口等基本集計結果」や「人口速報集計結果」が発表され次第、改めて取り扱います。

表1は1920年から2020年までの各年の国勢調査による、それぞれ10月1日時点の人口です。多摩地域30市町村の人口の推移を10年ごとに記載した表になります。100年の間にそれぞれの自治体は合併等で区分けが変化していますが、この表は現在の市町村域に基づいています。

東京都全体の人口は369万9428人から1399万3741人へと、100年間で3倍以上に増加しています。中でも1940年から70年までの30年で

資料1 2020年現在の人口上位5自治体等

	1920年	1970年	2020年
1 八王子市	78,705	253,527	576,608
9 町田市	23,620	202,801	434,670
6 府中市	12,032	163,173	263,646
8 調布市	8,619	157,488	240,571
26 西東京市	6,732	144,660	207,132
多摩地域計	310,718	2,533,862	4,280,606
島しょ計	33,106	33,267	24,633
現23区計	3,358,186	8,840,942	9,688,482
東京都計	3,699,428	11,408,071	13,993,721

NPO法人 多摩住民自治研究所

設立50周年に向けて、読者のみなさまから投稿を募集いたします。これまでの多摩研の思い出やエピソード、そしてこれからの多摩研に期待することなどを事務局までお願いします。



ともに祝おう50周年！ みんなでひろげようタマケンの和！

第40回議員の学校 オンライン版

「地方自治を真ん中に 憲法の全条文を読む」 ◇導入編
地方自治の基本を支える憲法の条文について学びます。
会員の方の参加をお待ちしております！

日時：2020年10月17日(土), 18日(日)

【講義後に、オンラインでの質疑応答を行います】 ※Zoom参加の事前操作練習等あり

講座参加費：講義視聴+質疑応答(Zoom)※見逃し配信あり

◇議員(市議会議員、都道府県議会議員):8,000円 ◇議員(町村議員):5,000円

◇多摩研会員(議員以外)・市民:3,000円

・講義をDVD、ダウンロード動画にて販売いたします ◇価格:3,000円(税込)

〈特典〉講義と一緒に申し込の方は1000円引きで販売

詳細は多摩研HPにてどうぞ。→ <http://www.tamaken.org/?p=2622>

財政研究会のお知らせ

【再開！】

第62回 学習会

テーマ

「検討中」

報告者：大野 清氏
新国 信氏

日時：10月24日(土)
14：00～

場所：多摩住民自治研究所

参加費：300円



厄病神退散！アマビエ Tシャツ販売中

アマビエは日本に伝わる妖怪で、疫病退散のご利益があるとの言い伝えがある。デザインは多摩美術大学の卒業生で、地域活性化・環境保全関係のNPO職員の紗穂里さんです。

引きこもり支援のNPOにも関わっています。Tシャツ代の一部は各NPOのカンパにもなります。多摩住民自治研究所で販売中！
詳細はHPにて！

<https://tamajichiken.wixsite.com/tamaken>

